



日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業

東海地区 10 大学連携 創薬人育成スクール

アドバンストコース

主として大学院生対象。学部高学年生も可。参加費無料

日時：令和6年10月5日（土）13時00分～17時30分

場所：名城大学薬学部 ライフサイエンスホール

開催世話人：名城大学薬学部 原 脩

プログラム

13:00	開会の言葉	名城大学 薬学部 原 脩
13:05～14:25	新規抗がん剤創出を目指したネットワーク型創薬	Meiji Seika ファルマ株式会社 近田 翼 先生
座長：梅澤 直樹	名市大	大腸がんは、男女ともに死亡者数の多いがんであり、大きなアンメッドメディカルニーズのある疾患である。本講義では、理化学研究所及びがん研究会との共同研究で取り組んだ新規大腸がんの創薬研究について紹介したい。大腸がんの発症メカニズムに基づく創薬コンセプトを概説し、講師が担当した化合物の生物評価データを解説する。
14:25～15:45	iPS 細胞の創薬研究と再生医療への応用	住友ファーマ株式会社 日野 恭介 先生
座長：平山 祐	岐阜薬大	京都大学・山中伸弥教授らのグループによって樹立された iPS 細胞 (induced Pluripotent Stem cell) は、体を構成するほぼ全ての細胞に分化することができる“分化多能性”と、培養条件下でほぼ無限に増殖できる“自己複製能”を合わせ持った幹細胞である。iPS 細胞は皮膚や血液など採取可能な体細胞から作製することができ、また様々な目的細胞に分化誘導できることから、疾患病態の研究や創薬、再生医療に幅広く応用されている。今回の講義ではヒト iPS 細胞を用いた創薬や再生医療について、社内での活用事例も含めて紹介したい。
16:00～17:20	核酸医薬品におけるドラッグデリバリー技術開発	協和キリン株式会社 春元 俊正 先生
座長：神野伸一郎	愛知学院大	核酸医薬は、低分子医薬や抗体医薬等とは異なり、遺伝子に直接作用することで治療効果を発揮する医薬品である。したがって、理論上は全ての分子を標的にすることが可能であり、これまで困難と考えられてきた分子を狙った創薬が可能となる。このような魅力から難治性疾患等に対する研究開発が盛んに行われている。核酸医薬の実用化には、生体内の標的細胞へ効率的に届けるドラッグデリバリー技術の開発が重要な研究課題である。本講義では、核酸医薬の現状ならびに協和キリンが見出した技術の実例を紹介する。
17:20	閉会の言葉	名古屋大学 横島 聡

日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業 東海地区世話人

横島 聡 (地域世話人代表、名古屋大学)、滝田 良 (静岡県立大)、中川秀彦 (名古屋市立大学)、柴田哲男 (名古屋工業大学)、原 脩 (名城大学)、安池修之 (愛知学院大学)、林 一彦 (金城学院大学)、北出幸夫 (愛知工業大学)、平山 祐 (岐阜薬科大学)、池田 将 (岐阜大学)、萬代大樹 (岐阜医療科学大学)、岩島 誠 (鈴鹿医療科学大学)